

# ジュゴン!?

令和3年に沖縄県希少野生動植物保護条例の指定希少野生動植物種に指定されたジュゴンは、これまでの調査により沖縄県内の広い範囲で<sup>は</sup>喰み跡<sup>あと</sup>等、生息の痕跡が確認されています。ジュゴン<sup>は</sup>個体<sup>あと</sup>や喰み跡の情報は、ジュゴンの生息状況を知るうえで大切な情報になります。また、海で採取した大型海産草食動物の糞をDNA分析することで、ジュゴンの糞かどうかを識別することが可能であり、これまでに提供された糞からジュゴンの生息状況の情報が得られています。

ジュゴンや<sup>は</sup>喰み跡<sup>あと</sup>を目撃したり、海で糞を拾った際には、沖縄県環境部自然保護課 **098-866-2243** までご連絡ください。

ホームページからでも情報の提供は可能です。



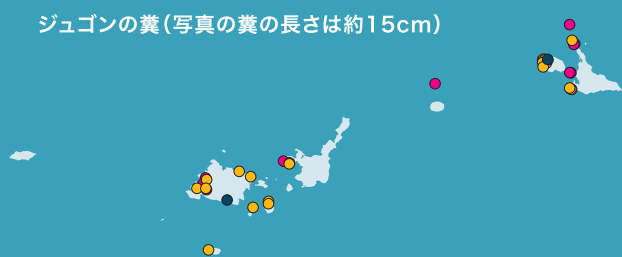
海草藻場で見られるジュゴンの喰み跡



ジュゴンの糞(写真の糞の長さは約15cm)



2025年4月に久米島で撮影されたジュゴン  
(写真提供:久米島ダイビングセンターSHIRAHAMA)



2020年以降の沖縄県内でのジュゴンや喰み跡などの目撃情報や確認地点

0 50km

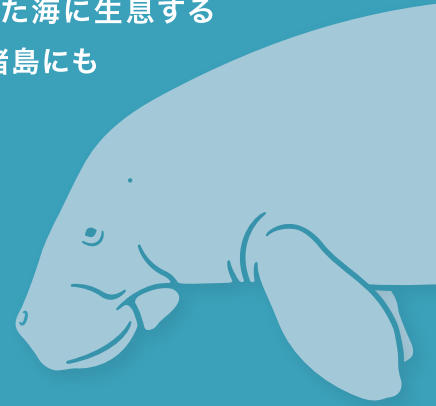
- ★ 久米島での個体の目撃
- 個体の目撃
- 喰み跡の確認
- 糞(ジュゴンDNAの検出)



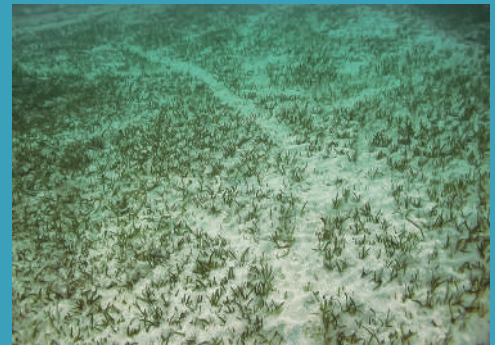
ジュゴンの親子（写真提供：環境省）  
成獣の体長は3m程度

ジュゴンは、西太平洋やインド洋、紅海の暖かい海に生息する動物で、沖縄は世界の分布の北限にあたります。世界中でジュゴンの個体数は少なくなり、そのため各国の法律などで保護されています。沖縄県内には、これまで沖縄島周辺の限られた海に生息すると考えられていましたが、近年先島諸島にも生息することがわかってきました。

## 沖縄のジュゴンと海草藻場



ジュゴン(ザン、ザンヌイユ)は、海草藻場で海草(ザングサ、ジャングサ)のみを食べています。海草藻場は、「海のゆりかご」とも呼ばれ、多くの生き物の生息環境、アカジンやマクブなどの幼魚のすみか、水質や底質の安定化、餌資源、二酸化炭素の吸収など大切な役割があるだけでなく、水産業の場としても「サンゴ礁」や「干潟」と共に大切な海の環境です。



ジュゴンが海草を食べた形跡（喰み跡）  
（写真提供：細川太郎）



ウミンチュによる喰み跡の調査（写真提供：環境省）

ジュゴンは、海草藻場で海草を食べることで、藻場を耕し、多くの生き物が生存できる環境をつくるはたらきが知られています。ジュゴンが訪れる海は、生物多様性の高い、豊かな海草藻場がある証です。

沖縄県や環境省では、漁網で混獲されたジュゴンを安全にリリースすることを目的に県内各地でレスキュー訓練を行ってきました。ジュゴンや生息地の海草藻場を守るための取り組みには、県民の皆様の関心と理解が不可欠です。



定置網でのレスキュー訓練（写真提供：細川太郎）